

## 4. 火災の実態

### 1. 火災の概要

平成19年中の火災は、出火件数 2,398 件、損害額 4,329,814 千円、死者数 78 人、建物焼損床面積 50,688 m<sup>2</sup>、建物焼損表面積 4,885 m<sup>2</sup>、林野焼損面積 239a、焼損棟数 1,871 棟、り災世帯数 1,215 世帯、り災人員 3,067 人となった。

(火災の状況)

区 分	平成 19 年 ①	平成 18 年 ②	対前年増減数 ③ = ① - ②	増減率
				③ — × 100 (%) ②
出火件数	2,398	2,310	88	3.8
建物火災	1,288	1,288	0	0
林野火災	59	51	8	15.7
車両火災	237	238	△1	△0.4
船舶火災	8	6	2	33.3
航空機火災	0	0	0	0
その他火災	806	727	79	10.9
焼損棟数	1,871	1,738	133	7.6
り災世帯数	1,215	1,254	△39	△3.1
り災人員	3,067	2,958	109	3.7
焼損面積				
建物床面積 (m <sup>2</sup> )	50,688	48,412	2276	4.7
建物表面積 (m <sup>2</sup> )	4,885	3,730	1155	31.0
林野 (a)	239	765	△526	△68.8
損害額 (千円)	4,329,814	4,327,438	2376	0.1
死者 (人)	78	77	1	1.3
負傷者 (人)	430	375	55	14.7

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成19年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数 6.6 件、損害額 11,863 千円、死者数 0.21 人、建物焼損床面積 138.9 m<sup>2</sup>、建物焼損表面積 13.4 m<sup>2</sup>、林野焼損面積 0.7 a、焼損棟数 5.1 棟、り災世帯数 3.3 世帯、り災人員 8.4 人である。

### 2. 出火件数

(1) 総出火件数は、2,398 件で前年と比べて 88 件増加している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
平成 19 年	2,398 件 (100.0%)	1,288 件 (53.7%)	59 件 (2.4%)	237 件 (9.9%)	8 件 (0.3%)	0 件 (0.0%)	806 件 (33.6%)
平成 18 年	2,310 件 (100.0%)	1,288 件 (55.8%)	51 件 (2.2%)	238 件 (10.3%)	6 件 (0.3%)	0 件 (0.0%)	727 件 (31.5%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。  
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。  
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。  
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。  
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。  
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(2) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、3月が310件と最も多く、2月256件、1月248件と続いている。

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均3.9件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は4,329,814千円で前年比2376千円（0.05%）増加した。また、県民1人当たりで見ると708円（前年717円）、1日当たりでは11,863千円（前年11,856千円）、1件当たりでは1,806千円（前年1,873千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
2,398件 (100.0%)	508件 (21.2%)	278件 (11.6%)	250件 (10.4%)	127件 (5.1%)	102件 (4.2%)	1,133件 (47.2%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は78人、負傷者は430人で前年に比べて死者は1人（1.2%）、負傷者は55人（14.7%）の増となった。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別で見ると建物火災が死者54人、負傷者368人でそれぞれ全体の69.2%、85.6%と大部分を占め、林野火災が死者0人、負傷者3人（0%、0.7%）、車両火災が死者9人、負傷者12人（11.5%、2.8%）、船舶火災が死者0人、負傷者2人（0%、0.5%）、その他の火災が死者15人、負傷者27人（19.2%、6.3%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると4月が14人と最も多く、次いで1月と11月が11人、12月が10人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の5割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	4	2	8	8	16	16	24	0
割合	5.1%	2.6%	10.3%	10.3%	20.5%	20.5%	30.8%	0.0%

(5) 死因

死者を死因別にみると火傷31人（39.7%）、自殺23人（29.5%）、一酸化炭素中毒・窒息20人（25.6%）、打撲・骨折1人（1.4%）その他・不明3人（3.8%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,288 (0.0%)	4,106,899 (1.1%)	床面積 50,688 m <sup>2</sup> (4.7%) 表面積 4,885 m <sup>2</sup> (31.0%)	1,871 ( 7.6 % )	1,215 (△3.1%)	3,067 ( 3.7 % )
林 野	59 (15.7%)	1,764 (△60.1%)	239 a (△68.8%)	—	—	—
車 両	237 (△0.4%)	138,017 (△17.8%)	—	—	—	—
船 舶	8 (33.3%)	17,124 (14662.1%)	—	—	—	—
航空機	0 (0.0%)	0 (0.0%)	—	—	—	—
その他	806 (10.9%)	53,155 (△49.1%)	—	—	—	—
(爆発)	9 (△10.0%)	12,855 (△81.7%)	—	—	—	—

( ) 内は対前年比

※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。  
H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

( ) 内の%は、小数点第2位で四捨五入のため、全ての合計が100%にならない場合があります。